

速度UPで今すぐ収益拡大！  
WordPressサイト高速化の  
必須知識10選

# サイトをスピードアップしよう

ウェブサイトは速いに越したことはありません。日常的にブラウジングを行っている、サイトが表示される速度がユーザー体験を大きく左右することはご存知のはず。読み込みに1~2秒以上かかるサイトを閲覧せずに離れてしまった経験は誰にでもあるものです。

**つまりビジネスの成功には、高速なウェブサイトが不可欠。**

WordPressは費用対効果が高く、多機能で強力なサイトを作ることができますが、様々な要因によって、低速になってしまうことがあります。

## Kinstaが実体験から学んだノウハウ

Kinstaでは、かなり大規模なWordPressサイトを運営しており、訪問数は毎月数百万件で、ほぼ毎日役立つコンテンツを公開中。また、Kinstaのプラットフォーム上では、2万5,500以上のお客様の10万件以上のウェブサイトが稼働しており、10年以上にわたってWordPressに特化したクラウドサーバーを提供しています。

本書では、全11章にわたって、Kinstaが実体験から学んだノウハウをもとに、サイトの高速化に役立つヒントをご紹介します。そのヒントを取り入れることで、サイト速度を劇的に改善できる可能性があります。サイト高速化の方法を模索中の皆さまのお役に立てましたら幸いです。

# 目次

- 09 第1章 [できる限りキャッシュする](#)
- 15 第2章 [CDNは高速化に必要不可欠](#)
- 19 第3章 [高速なテーマを使用する](#)
- 24 第4章 [評判が良く信頼性に優れたプラグインを使う](#)
- 31 第5章 [訪問者に近いデータセンターを選ぶ](#)
- 34 第6章 [画像の最適化](#)
- 38 第7章 [HTTPリクエストを削減する](#)

**44** 第8章  
[静的ファイルの圧縮と最適化](#)

**47** 第9章  
[プレミアムDNSを使用する](#)

**50** 第10章  
[GZIP圧縮を有効にする](#)

**52** 最終章  
[スピードにこだわり続ける](#)

# まずはスピードテストから

まずは、基準値が必要になります。サイトのスピードテストを実施して、今のサイト速度を把握しましょう。パフォーマンススコアが低くても、これから改善されていきますのでご安心ください。

- [スピードテストの実施方法はこちら](#)をご覧ください。適切なテストを行うための準備とおすすめのテストツール（無料・有料）を数十種類ご紹介しています。
- お急ぎの方は、[Pingdom](#)または[Google PageSpeed Insights](#)を使用すると、ほんの数分でテストを実行できます。



Pingdomのサイト速度テストツール

テスト結果はスクリーンショットを撮っておくか、データをドキュメントにコピーして保存しておいてください。これでサイト高速化の下準備が完了です。

## 鍵は「削減」にあり

サイト速度に関して、意外と知られていない4つの重要な用語があります。この4つを削減することが、サイト高速化の鍵となります。

1. **レイテンシー**—データがある場所から別の場所（ウェブサーバーからブラウザなど）に移動するのにかかる時間。
2. **HTTPリクエスト**—サーバーからデータ（テキスト、画像、CSS/Javascript）を取得するためにブラウザが送信するリクエスト。第7章で掘り下げていきます。
3. **ポップ**—インターネット（コンピュータネットワーク）において、サーバーから要求されたデータが目的地に到達するまでに経由する地点（ルーターなど）。
4. **TTFB**—Time to First Byte（最初の1バイトを受信するまでの時間）の略。

[ネットワークレイテンシ](#)、[TTFBについてはこちら](#)をご覧ください。ここで押さえておきたいのは、この4つの数値をできる限り低くすることが、サイト高速化に不可欠という点です。

それでは、早速10のヒントを見ていきましょう。

## パフォーマンス監査で先手を打とう

Kinstaのエンジニアが、サイトのパフォーマンスを無料で調査し、速度を低下させているボトルネックを特定します。サイトの高速化を始める前に、ぜひお気軽にご相談ください。

無料のパフォーマンス監査を依頼

## 第1章

# できる限り キャッシュする

キャッシュの活用は、WordPressサイトを高速化する最も簡単な方法の一つです。

## キャッシュとは

WordPressサイトを構成するすべてのウェブページは、その都度、動的にレンダリングしなければなりません。サーバーにリクエストが送信され、サーバーがそれを処理し（データベースクエリを含む）、ブラウザにデータを返します。たった1ページを表示するだけでも、これだけのプロセスが必要です。

長尺なページや複雑なページは、このプロセスに時間を要します。また、多くのユーザーが一度にオンザフライでページをレンダリングすると、サーバーに大きな負荷がかかります。

そこで出番になるのがキャッシュです。キャッシュは、ディスクやRAMに頻繁に変更されないファイルを保存するようサーバーに指示を出すことで、HTTPリクエストの数を削減します（詳しくは後ほど）。これによって、サーバーの負担が軽減され、より高速にページをレンダリングできるように。より多くの訪問者に素早くページを届けることができます。

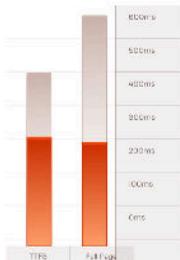
Turn on  
Kinsta's Edge  
Caching



Faster  
49%

#### Average Speed Improvement Results

Page load results after turning on  
edge caching on 300+ websites



開発エージェンシーMOONBONは  
Kinstaへの移行で  
TTFBを4.89秒から0.043秒に短縮

[導入事例を見る](#)

## キャッシュの種類

1. サーバーレベルでのキャッシュ
2. WordPressのキャッシュプラグイン
3. エッジキャッシュ

### 1. サーバーレベルでのキャッシュ

キャッシュは、サーバーレベルで実装するのが最善です。これは、すぐに実現できる場合もあれば、極めて困難になる場合もあります。

後者は、自分で実装が必要になる状況です。これには、ウェブサーバーにアクセスし、サーバーを操作・設定する技術と知識が求められます。高度な知

識を持ち合わせていない場合は、WordPressプラグイン（方法2）を使用するか、ご利用中のサーバーに相談してみてください。

ホスティングサービスによっては、キャッシュを実装してくれるものも。この場合は非常に簡単に実現可能です。

## 2. WordPressのキャッシュプラグイン

サーバー側でキャッシュを実装してくれない場合は、以下のいずれかのWordPressプラグインを使用することができます。

- WP Rocket（有料）
- Cache Enabler（無料）
- W3 Total Cache（無料）

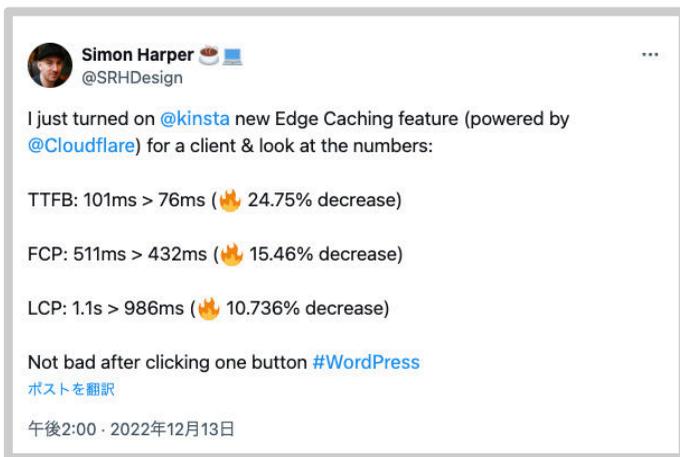
[その他のWordPressのキャッシュプラグインはこちら](#)をご覧ください。

## 3. エッジキャッシュ

[エッジキャッシュ](#)は、比較的新しいキャッシュ技術で、頻繁に更新されるHTMLテキストコンテンツを訪問者のすぐそば、つまりサーバーのグローバ

ルネットワークにできるだけ近い場所に保存します。これには、HTMLコンテンツを動的に更新し、変更されるたびに世界中に複製する高度な機能が必要です。

よほどの専門知識を持たない限りは、このような機能を自作することは不可能に近く、[世界各地にネットワークを持つエッジサーバー](#)を利用するのが一般的です。この設定も複雑になるため、可能であればサーバーに導入してもらうのが理想的です。



Simon Harper 氏によるXの投稿

## 実践しよう

- 利用しているサーバーにどのようなキャッシュ機能があるかを問い合わせるか、コントロールパネルにログインして自分でキャッシュ機能を確認、設定する。※ツールやインターフェースはサーバーによって異なります。
- [WordPressのキャッシュプラグイン](#)、WP Rocket（有料）、Cache Enabler（無料）、またはW3 Total Cache（無料）を実装する。

## 第2章

# CDNは 高速化に不可欠

CDNとは、コンテンツデリバリーネットワークの略で、画像、CSS、JavaScript、動画など、データベースクエリを必要としないファイルを高速配信するために設計された、サーバーのグローバルネットワークです。CDN上の各サーバーは、PoP（Point of Presence）と呼ばれ、多ければ多いほど良く、より多くの場所で多くのユーザーにサービスを高速提供することができます。

CDNは、主力となるWordPressサイトのサーバーの代替になるものではなく、大きな静的ファイルを高速配信する補助的な役割を担います。CDNでの配信の方が高速になる理由は、PoPが訪問者の近くにあり、データベースクエリを実行する必要がない点にあります。



Kinstaに標準で搭載されているCDNそしてエッジのすごさを思い知りました。これを例えば日本の某社にお願いしてCDNをセットアップしてもらおうと、1ヶ月10万円～といった額になりますよね。それくらいの値段を感覚としてイメージしていたものですから、Kinstaの安さには驚きました。

**奥田浩一 様**

株式会社文化工房

[導入事例を読む](#)

通常、ウェブサイトは1つのデータセンターに置かれています。例えば、東京に住むユーザーが、ロンドンで稼働するウェブサイトにアクセスするとします。その物理的な距離を考慮すれば、JPEGを読み込むのにも相当な時間がかかることは容易に想像がつかます。CDNを使用すれば、訪問者の所在地を検出し、JPEG画像が日本国内から素早く読み込まれます。

# CDNの設定

CDNサービスは、[Cloudflare](#)または[Sucuri](#)がお勧めです。どちらも月単位またはデータ使用量に応じて料金を支払います。CDNサービスの公式サイトでは通常、料金を見積もる計算機が用意されています。また、Cloudflareは無料プランも提供しています。

サーバーの多くでは、CDNがプランに付帯しているか、アドオンで利用でき、自分で設定するよりもはるかに簡単に使用できます。使用方法が不明な場合は、サーバーに問い合わせしてみてください。

- [Cloudflare CDNを設定する方法](#)
- [Sucuri CDNを設定する方法](#)

## 実践しよう

- サーバーがCDNを提供しているかどうか、（提供している場合）どのように有効化するかを問い合わせる。
- CloudflareまたはSucuri CDNを自分で設定する。

## 第3章

# 高速なテーマを 使用する

最新のWordPressテーマは常に気になるものですが、新しい機能を備えたテーマを入手する前に、考慮すべき点がいくつかあります。例えば、無料のテーマと有料のテーマには、様々な違いがあります。

テーマの要素や機能は、サイト全体の速度に何らかの影響を与えます。そして何千種類も存在するテーマの中には、優れたものもあれば、質の低いものも存在します。テーマはサイトの速度とパフォーマンスを大きく左右するため、サイトの立ち上げ時に適切なものを選ぶことが重要です。

具体的には、**必要な機能だけが揃った高速で軽量なテーマ**、あるいは**機能豊富でも不要な機能は無効化できるテーマ**のいずれかをお勧めします。

フォント、アイコン、スライダー、ギャラリー、動画、パララックスなどの要素は、サイトの見栄えを良くするメリットもありますが、速度を低下させる要因にもなり得ます。すべての要素をフル活用する必要はありません。優れたテーマでは、必要に応じて機能を無効にすることができるものです。また、CSSやフォントの最適化、事前読み込みも行われます。

[CSSのベストプラクティスはこちら](#)でご紹介しています。

最初から軽量なテーマ、または上記のように機能を必要に応じて無効にできるテーマを使用することが重要です。下記の「実践しよう」セクションで、おすすめの詳細なテーマをいくつかご紹介します。

## ページビルダーに関する注意事項

ページビルダーはテーマ上で動作し、ビジュアルエディターでページのスタイルを編集することができるツールです。WordPressコミュニティで広く支持されています。

ページビルダープラグインには、以下の注意点があります。

- ページビルダーによっては、CSSやJSを追加で読み込むことになるため、サイトの速度に悪影響を与えることがある。ページビルダーをインストールする前と後で、必ずスピードテストを実施すること。
- ページを作成するたびにページビルダーを使用することになるため、慎重にページビルダーを選ぶこと。ユーザーからの評価が高く、定期的に更新され、長期にわたって必要になるもの（サポートなど）が利用できるものを使用する。
- テーマによっては、互換性のないページビルダーもあるため、事前に調査するか、ステージング環境でテストを行う。

- WordPressには、従来のクラシックエディターよりも性能が高く使いやすい[ブロックエディター \(Gutenberg\)](#) が標準搭載されており、サイトの表示速度を低下させることなく、有料ページビルダーの代替として使用できる。互換性のあるテーマでは、ブロックエディターの[フルサイト編集機能](#)で編集可能。

ページビルダーは、GenerateBlocksがインストールされたGeneratePress、Elementor、またはBeaver Builderがお勧めです。どれもパフォーマンスを考慮して設計されており、サイト速度に与える影響は最低限に抑えられています。

[その他のおすすめページビルダーはこちら](#)でご紹介しています。

## 実践しよう

- おすすめのテーマ、GeneratePress、Astra、OceanWPなどの使用を検討する。いずれもフレームワークのように機能し、柔軟にデザインを編集することができ、無料版と有料版がある。
- [おすすめ WordPress テーマ](#) をチェックする。
- アプリケーションパフォーマンス監視（APM）ツールを使用して、現在使用しているテーマがサイトの速度を低下させているかを確認する。確認方法は、本書の最終章をチェック。

## 第4章

# 評判が良く 信頼性に優れた プラグインを使う

WordPressサイトにプラグインを実装しすぎると、動作が遅くなるという話は聞いたことがあるかもしれません。これは間違いではありませんが、厳密にはもっと複雑です。

質の高いプラグインであれば、30~40個導入しても問題にはなりません。しかし、速度が考慮されていないプラグインの数が増えれば増えるほど、サイトの速度を低下させるリスクは高まります。

プラグインの開発はそれほど難しくなく、中にはChatGPTのような生成AIを使って、プラグインをまるっと構築してしまう開発者もいるほど。

自分でプラグインを作成したり、雑に開発されたプラグインを使用したりすることには、以下のようなリスクがあります。

- コードを管理し、規格が変わるたびに継続して更新が必要（規格の変更は頻繁に起こる）。時間に余裕がある場合をのぞいて、プラグインのメンテナンスは、WordPressコミュニティのプラグイン開発者に任せるのが最善。
- 不備のあるプラグインは、大量のHTTPリクエストや最適化されていない静的アセットを取り込み、サイトの速度を低下させる可能性がある（詳細は後ほど）。

- WordPressプラグイン開発は参入障壁がかなり低いことから、十分な技術を持たないユーザーもプラグインを作成している。問題なく動作しても、高速かつ安全で、長期的な使用が可能であるとは限らない。

上記を踏まえ、実際の利用者からの評価が高く、信頼性に優れたプラグインを使用してください。[WordPress.orgのプラグインディレクトリ](#)には、6万以上の無料プラグインが公開されており、規模はさまざまな開発会社によって作成された未知の有料プラグインも何千と存在しています。そのため、真に優れたプラグインを見つけるのは簡単ではありませんが、次のページでご紹介する記事が役に立つはずです。

## 実践しよう

- “海賊版”プラグイン（英語では「Nulled」プラグインと呼ばれる）を使用しない。海賊版プラグインは、有料プラグインの違法コピーで、悪意のあるコードが組み込まれている場合が多く非常に危険。[詳しくはこちら](#)
- プラグインのインストール前に、[WordPressプラグインディレクトリ](#)のユーザーレビューに目を通す。星の数や肯定的なレビューの数を確認し、質問者への対応頻度（以下スクリーンショット参照）もチェック。
- [G2](#)などのレビューサイトを閲覧するか、ブラウザで検索して、複数のレビューを比較する。評価の高いものは何百万人ものユーザーが利用し、レビューも多数見つかるはず。レビューが見当たらない場合は、信頼性に欠けることを示唆している可能性がある。
- Kinstaをはじめとする多くのWordPress専用サーバーでは、[一部プラグインの使用を禁止](#)している。信頼性が高いことが確実にわかっている場合、あるいはどうしても必要な場合を除いて、使用を控える。
- [おすすめのWordPressプラグイン](#)をチェックする。

**easydigitaldownloads**  
The easiest way to sell digital products with WordPress

**Easy Digital Downloads – Sell Digital Files & Subscriptions (eCommerce Store + Payments Made Easy)**  
By Easy Digital Downloads

[Download](#)

[Details](#) [Reviews](#) [Installation](#) [Development](#) [Support](#)

### Description

**eCommerce without limits**

We believe that your passion for creating shouldn't be limited by your choice of eCommerce software. **Easy Digital Downloads** gives you unlimited products with no hidden listing fees, unlimited transactions, and provides unlimited possibilities.

Too often, you must choose between powerful and cheap. Not with Easy Digital Downloads. It's free and easy to start with limitless possibilities, which is why some of the most popular digital eCommerce businesses trust Easy Digital Downloads with their store.

Within minutes of starting the Setup Wizard, you'll have access to all the features you need to start selling your digital products today, including an integrated shopping cart, flexible payments like credit cards, PayPal, Apple Pay, and Google Pay!, a clean and optimized checkout, customer management, detailed eCommerce reports, secure file storage, discount codes, and more.

**Easy Digital Downloads Pro**  
This plugin is the the version of the Easy Digital Downloads Pro plugin that comes with all the eCommerce features you will ever need, including subscriptions, custom payment forms, email marketing tools, additional payment processors, and more. [Purchase the best premium WordPress eCommerce solution now!](#)

Version	3.2.12
Last updated	1 month ago
Active installations	50,000+
WordPress version	3.8 or higher
Tested up to	6.5.3
PHP version	7.4 or higher
Languages	<a href="#">See all 24</a>
Tags	digital store, ecommerce, payments, and stripe

[Advanced View](#)

### Ratings

[See all](#)

5 stars	476
4 stars	11
3 stars	4
2 stars	5
1 star	17

[Log in to submit a review](#)

How to Create Your First Digital Download with EDD

**Quick Setup For**  
**easydigitaldownloads**

Watch on [YouTube](#)

### Effortless payments with a checkout form

With 1-Click connections to the most popular payment processors, you'll be selling within minutes, allowing your customers to checkout with ease with the ability to choose from the most popular payment methods in their region of the world. With Stripe and PayPal, your eCommerce store is

### Support

Issues resolved in last two months:

25 out of 26

[View support forum](#)

WordPressプラグインディレクトリのユーザーレビューとサポート

# WordPressプラグインとデータベース

WordPressプラグインを削除する際には注意が必要です。プラグインやテーマをインストールすると、データベースにデータが保存されます。その後、何らかの理由でプラグインを削除する際、ただ「削除」ボタンをクリックするだけでは、データベースにテーブルや行が残ります。徐々にこの不要なデータが蓄積し、速度を低下させる恐れがあります。

このような厄介な仕組みになっているのには、以下のような理由が考えられます。

- ユーザー設定を保持するため—プラグインを一度削除した後、また使いたくなくても、すべての設定とデータが残っていると便利のため。とは言え、これが最も効率的な方法というわけではない。
- そもそもパフォーマンスを考慮していない—テーブルが残ってもパフォーマンスに影響を与えることはないと主張するプラグイン開発者もいるが、10年以上にわたって何十、何百ものプラグインを使用し、何千もの行やテーブルが生成されているサイトを想像すれば答えは明らか。

- 単なるミス—WordPressのプラグイン開発ハンドブックには、「経験の浅い開発者は、この目的のために無効化フックを使用するミスを犯すことがある」（英語原文の日本語訳）と書かれているほど。

プラグインをクリーンアップして、適切に削除する方法を押さえておきましょう。

## 実践しよう

- [WordPressプラグインを適切に削除する方法](#)を確認する。
- [データベースに残されたテーブルを削除する方法](#)を学ぶ。

## 第5章

# 訪問者に近い データセンターを 選ぶ

訪問者に近いデータセンターでサイトを提供することで、待ち時間、TTFB、ネットワークホップ数が最低限におさえられ、サイト速度を大幅に改善することができます。

以下に挙げるいずれかの方法を用いて、どの地域からアクセスしている訪問者または顧客が多いかを調べることから始めてみてください。

サイトを立ち上げたばかりで、訪問者に関する情報がない場合は、希望するターゲット市場に最も近いデータセンターでサイトを運営しましょう。

## 実践しよう

- スピードテストを実施し、どの地域にサイトが一番近いかを評価する。訪問者の多い地域でサイトを運営している場合に有用。Google Cloud Platformの測定には[GCPPing.com](https://gcpping.com)、Amazon Web Services（AWS）には[CloudPing](https://aws.amazon.com/cloudping/)、Microsoft Azureには[AzureSpeed Test](https://azure.microsoft.com/en-us/services/azure-speed-test/)を使用する。
- ECサイトを運営している場合は、配送先住所などから、買い物客の地理的位置を分析する。
- Google アナリティクスで訪問者の地理的位置を分析する。
- 利用しているサーバーに現在使用しているデータセンターを確認し、別のデータセンターへの移動が可能かどうか、それに伴いサイトが高速化されるかどうかを確認する。

## 第6章

# 画像の最適化

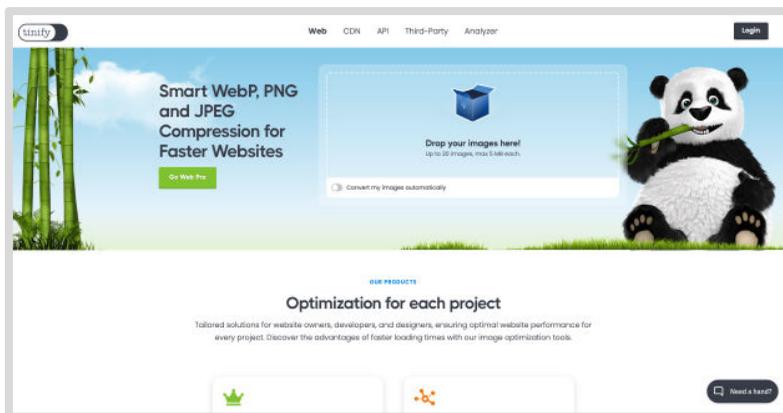
HTTP Archiveによると、画像はウェブページの30%以上を占めています。そのため、画像を最適化することができれば、読み込み時間の短縮につながります。

画像の最適化は手軽に実践でき、さまざまな方法があるため、必ず取り入れたいところ。画像の最適化を行っても、訪問者がその画質の違いに気がつくことはほぼありません。

「画像の最適化」とは、具体的には視覚的な品質を高く保ちながら、画像をできる限り小さくすることを意味します。

基本的な方法としては、WordPressにアップロードする前に画像を圧縮すること。これには、Adobe PhotoshopやAffinity Photoなどの「Web用に保存」や「書き出し」を使用します。あるいは、[TinyPNG](#)や[Smooosh](#)のようなオンラインツールでも同じことを実行可能です。

この手法のデメリットとしては、手作業で行わなくてはならないこと。しかし、WordPressプラグインを使って自動する手もあります（以下の「実践しよう」セクション参照）。



TinyPNG

## ファイル形式

ファイル形式と圧縮形式を正しく組み合わせることで、高画質を保ちながら、画像のサイズを5分の1にすることができます。それぞれの画像やファイル形式を試し、どの組み合わせが一番効果的かを確認してみてください。[ファイル形式と圧縮形式に関する詳細はこちら](#)をご覧ください。

**PNG**—スクリーンショット、商品写真、シンプルな画像、イラストに使用。写真の場合はJPEGよりもサイズが大きくなる。

**JPEG** —色数の多い写真や画像に使用。

**GIF** —現在は時代錯誤で、より高画質でサイズの小さいPNGを使用するのが賢明。

**GIFアニメーション** —GIF同様、画像に適した形式ではない。スクリーンショットのアニメーションやループアニメーションを作成する場合は、[Convertio](#)や[Adobe Express](#)のような簡単な[GIF変換ツール](#)を使って、mp4形式の動画に変換するのが理想的。

## 実践しよう

- WordPressの画像圧縮プラグインをインストールして、画像最適化のプロセスを自動化する。外部（サイトをホストするサーバー外）で画像が最適化されるため、サイトを高速に保つことができる。[Imagify](#)、[WP Smush](#)、[Optimole](#)、[EWWW Image Optimizer](#)、[ShortPixel](#)などの外部/オフサーバー機能があるものを使用するのがお勧め。
- 長期的な自動化ソリューションを導入するまでは、[TinyPNG](#)や[Smooosh](#)を使ってアップロードする前に画像を最適化する。

## 第7章

# HTTPリクエストを 削減する

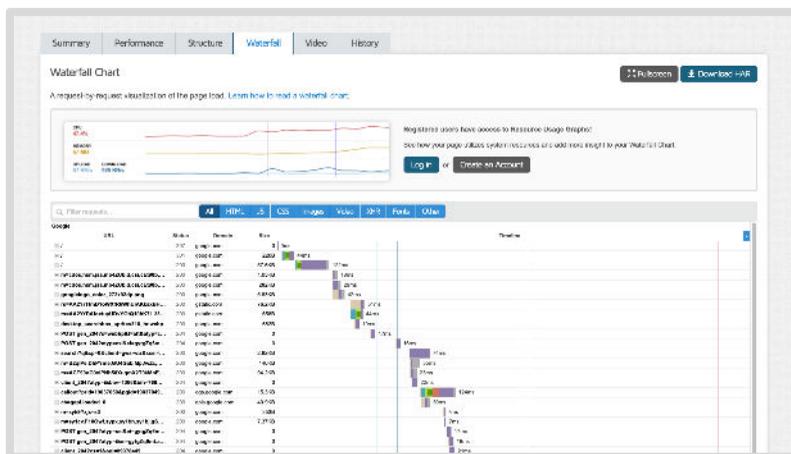
ブラウザはHTMLテキスト、画像、CSS、JavaScript、その他のファイルやデータを読み込む際、サーバー（WordPressサイト）に対してHTTPリクエストを送信します。このHTTPリクエストの数を最小限にすることで、サイトパフォーマンスを改善することができます。

HTTPリクエストは減らしたり、組み合わせたり、なくしたり、必要時にだけ読み込んだりすることができます。これからご紹介する方法は簡単に実践可能です。

## HTTPリクエストのテストを実行

まずは、[GTmetrix](#)（無料）にアクセスして、テストを実行します。サイトのURLを貼り付け、「Test your site」をクリックすると、分析が開始されます。しばらく待って結果が表示されたら、「Waterfall」タブを開き、各項目がいつ、どの程度の速さで読み込まれたかを詳細に確認します。項目はHTML、CSS、フォント、画像などで並び替え可能です。

これで何がサイトの速度に悪影響を与えているかを特定し、改善に取り組むことができます。



GTmetrixのウォーターフォールチャート

## カスタムフォントの制限

カスタムフォントは、おしゃれで洗練されたウェブサイトを作るのに適していますが、使用するたびにHTTPリクエストが追加されるため、注意が必要です。

カスタムフォントの使用は最低限にしてください。例えば、記事のタイトルと本文で本当にフォントを使い分ける必要があるのか、今使用しているフォントすべてに使用する価値があるのかなど、検討してみてください。

たとえば、5種類のフォントを使用している場合は、2種類だけ呼び出して、残りはシステムフォントを使用するという手もあります。

また、Font AwesomeやIcoMoonなどの[アイコンフォント](#)も同様です。アイコンフォントは便利ですが、通常複数を組み合わせる必要はありません。1つを選んで、こだわって使用するのが得策です。あるいは、WordPressの公式アイコンフォント「Dashicons」で事足りるかもしれません。

## 外部へのHTTPリクエストを削減する

サイト訪問者は、他のサイトへのリクエストも送信しており、これも削減の余地があります。例えば、動画プレーヤーを読み込む代わりに、YouTube動画へのサムネイルをクリックできるようにするなどの工夫を行うことができます。

主な外部HTTPリクエストには、以下のようなものがあります。

- 埋め込まれたYouTube動画一サイトに埋め込む動画プレーヤーは、YouTubeのサーバーに大量のHTTPリクエストを送信する。

- Google アナリティクストラッキングスクリプトは、Googleのサーバーでホストされているが、訪問者のブラウザでトラッキングコードをダウンロードしなければならない。
- サードパーティの広告サービス—広告を掲載している場合、関連する外部へのリクエストが大量に送られる。

テーマやプラグインには、特定のページでしか必要のないスクリプトをすべてのページで読み込むものがあります。

例えば、人気の高いお問い合わせフォームプラグインの[Contact Form 7](#)は、ほとんどの場合、お問い合わせページ以外では不要。ところが、Contact Form 7はすべてのページでスクリプトを読み込みます。

このような無駄を省き、[必要なプラグインを条件付きで読み込む](#)ことができます。開発知識がない場合は、[Asset CleanUp](#)や[Perfmatters](#)などのプラグインを使用するか、この手の最適化を開発者に依頼してみてください。

第6章では、プラグインがサイト速度を下げる要因になり得ることを述べましたが、不必要なHTTPリクエストもまた、速度を低下させる最大の原因の1つ。

先ほど挙げたGTmetrixのテストで、再度「Waterfall」タブを再確認しましょう。ページ検索（WindowsではCtrl+F、MacではCMD+F）で「plugins」を検索し、プラグインからのHTTPリクエストを一覧表示して、問題があるかどうかを評価してみてください。

Kinstaに乗り換えると、TTFBが短縮され、すぐに全体の読み込み時間が大幅に改善されました。平均TTFBは30~40%短縮され、他のパフォーマンス指標にも同様に良い影響を与えてくれていることがわかりました。

**Devesh Sharma 氏**

創設者 | [designbombs.com](https://designbombs.com)

## 実践しよう

- [HTTPリクエストとそれを削減する方法](#)をチェック。
- テーマやプラグインによるHTTPリクエストを減らす方法を開発者に確認する。

## 第8章

# 静的ファイルの 圧縮と最適化

WordPressサイトは、数々のファイルも読み込んでいます。画像やHTMLだけでなく、JavaScriptやCSSもその一例です。これらのファイルサイズを小さくし、最適化することができれば、待ち時間を短縮し、HTTPリクエストも削減することができます。

## HTML、CSS、JavaScriptの圧縮

HTML、CSS、JavaScriptリソースを圧縮することで、ブラウザがダウンロードするデータ量を減らすことができます。圧縮とは、ソースコードからコメントや空白などの不要な文字を取り除くことで、想像以上に効果があります。

不要な文字は開発時には便利でも、本番ページでブラウザがレンダリングする際には役立ちません。圧縮はプラグインで実行可能です。

以下は、圧縮前のHTMLコードの例です。

```
1 <!DOCTYPE html>
2 <html lang="en-US" class="no-js no-svg">
3 <head>
4 <meta charset="UTF-8">
5 <meta name="viewport" content="width=device-width, initial-scale=1">
6 <link rel="profile" href="http://gmpg.org/xfn/11">
7
8 <script>(function(html){html.className = html.className.replace(/\bno-
9 js\b/, 'js')})(document.documentElement);</script>
9 <title>editwp &#8211; Just another WordPress site</title>
10 <link rel="dns-prefetch" href="//fonts.googleapis.com" />
```

圧縮すると、以下のようになります。

```
1 <!DOCTYPE html><html lang="en-US" class="no-js no-svg"><head><meta
  charset="UTF-8"><meta name="viewport" content="width=device-width,
  initial-scale=1"><link rel="profile" href="http://gmpg.org/xfn/11">
<script>(function(html){html.className = html.className.replace(/\bno-
  js\b/, 'js'}})(document.documentElement);</script> <link type="text/css"
  media="all" href="https://mk0editwpn6qbfuw5o9.kinstacdn.com/wp-
  content/cache/autoptimize/css/autoptimize_499850c34eb7b4e7cbd9d8b41b2a5
  7d6.css" rel="stylesheet" /><style type="text/css"
  media="print">#wpadminbar{display:none}</style><style type="text/css"
  media="screen">html{margin-top:32px !important}* html body{margin-
```

このように空白や改行を削除するだけで、サイトの高速化につながります。無料の[Autoptimize](#)または[WP Rocket](#)を使えば、簡単に圧縮可能です。

## Early Hintsを使用する

『[サイト高速化チェックシート](#)』でもご紹介していますが、Early Hintsは新たなウェブ標準で、ページの読み込み時間を短縮するため、ブラウザに事前に読み込むファイルを指示（ヒント）することができます。[詳しくはこちら](#)をご覧ください。

## 第9章

# プレミアムDNSを 使用する

# プレミアムDNS

DNSはドメインネームシステムの略で、非常に重要な存在でありながら、見落とされがちです。DNSはインターネット上の主要なトラフィックを制御し、ドメインとIPアドレスを変換する役割を担っています。

実は多くの方が、ドメインレジストラ提供の無料DNSを使用しています。無料のDNSサービスは、速度が遅かったり、頻繁にダウンしたりするなどの懸念点があります。プレミアムDNSは、特にDDoS（サービス拒否）攻撃に対して、より良いセキュリティと可用性をもたらします。

- ・無料のDNSは、GoDaddy、Namecheap、Hoverなどのドメインレジストラによって提供されています。
- ・任意で利用できるプレミアムDNSサービスには、[Amazon Route 53](#)、[Cloudflare](#)、または[DNS Made Easy](#)などがあります。

## DNSサーバーの稼働率は重要？

DNSサーバーの稼働率が重要であるかは、状況によって異なります。というのも、DNSは通常、DNSレコードのTTL（Time to Live）を使用してISP

にキャッシュされるため、DNSサービスが10分間ダウンしても、ほとんど気づくことはありません。しかし、サービスが長時間頻繁に停止する場合や、ISPとDNSレコードのどちらもかなり低いTTL値を使用している場合は、DNSサーバーの稼働率が非常に重要になります。

## 実践しよう

- [DNSスピードテスト](#)を実施する。
- [プレミアムDNSサービスを比較](#)して、要件に適したものを見つける。
- [DNSに関する解説記事](#)を読んで、ビジネスの要件を見極める。

## 第10章

# GZIP圧縮を有効にする

GZIPは、ファイルの圧縮と解凍に使用されるファイル形式、およびソフトウェアアプリケーション。GZIP圧縮をサーバーサイドで有効にすることで、HTML、スタイルシート、JavaScriptファイルのサイズを小さくすることができます。

GZIPを活用すると、ページのダウンロード時間を劇的に短縮し、訪問者が使用するデータを削減し、ページがレンダリングされるまでの時間を短縮することができます。GZIPは現在、ほとんどのサーバーで標準搭載されているため、使用していない場合、Google PageSpeed InsightsやGTmetrixなどのテストで警告やエラーが表示される場合があります。

## 実践しよう

- サイト速度をテストするか（本書の冒頭参照）、テスト結果を確認して、GZIP圧縮に関する情報を確認する。
- 利用中のサーバーでGZIP圧縮が有効になっているかを確認し、必要に応じて設定を依頼する。
- [GZIP圧縮に関する詳細](#)を参照する。

最終章

# スピードに こだわり続ける

アプリケーションパフォーマンス監視（APM）ツールを使用すると、サイトの速度を低下させている原因を詳しく確認できます。APMツールでは、サイトのPHPパフォーマンスに関するタイムスタンプ情報を取得できるため、ボトルネックを見つけて、スムーズに問題解決に取り組むことができます。

APMツールは、**New Relic**と**App Dynamics**の2つがお勧めです。

[APMの概要と仕組みはこちら](#)をご覧ください。

【嬉しいお知らせ】Kinstaのコントロールパネル「MyKinsta」には高性能APMツールが搭載されています（無料で利用可能）。また、任意でのNew Relicの統合も可能です。

Kinstaのおかげで、各サイトを横断的に参照・分析できるようになったことも、今となれば良かった点です。

**望月真仁 様**

基盤部 部長 | 株式会社ヤプリ

[導入事例を見る](#)

ここまでお読みいただき、ありがとうございました。皆さまのサイト高速化に本書がお役に立てましたら幸いです。

サイトの高速化において、過小評価できないのがサーバー選び。Kinstaでは、超高速なWordPress専用マネージドクラウドサーバーを提供しています。Cloudflare提供のHTTP/3対応CDN、世界各地に設置された35箇所以上のGoogle Cloudデータセンター（日本では東京と大阪の2拠点）、画像最適化、プレミアムDNS、GZIP圧縮、エッジキャッシュ、Early Hintsなど、本書でも取り上げた、高速化に役立つあらゆる機能がすべてのプランに標準搭載されています。

ご質問やご不明点がございましたら、[お気軽にお問い合わせください](#)。

## リスクなしでKinstaのホスティングをお試し

KinstaのWordPress専用マネージドホスティングでは、他社からのサイト移行が無料（サイト数に制限なし）。さらに、30日間の返金保証が付帯するため、リスクなしでお試しいただけます。利用に関するご質問がございましたら、いつでもお気軽にお問い合わせください。

無料のサイト移行を依頼する

